

調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

小学校第6学年（門真市：13校） 738名
中学校第3学年（門真市：6校） 648名

(3) 調査内容

①教科に関する調査（小6：国語、算数）
（中3：国語、数学）

- 身に付けておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- 調査問題では上記の2点を一体的に問うこととする。
- 出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 今回お知らせする調査結果につきましては、学力や学習の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などの全てを表すものではありません。

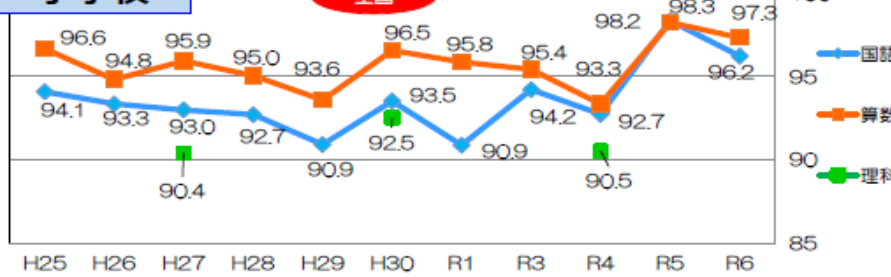
校種・教科・観点・区分別平均正答率

小学校	令和6年度		
	門真市	大阪府	全国
国語 (全14問)	8.2	9.2	9.5
算数 (全16問)	8.9	10.0	10.1

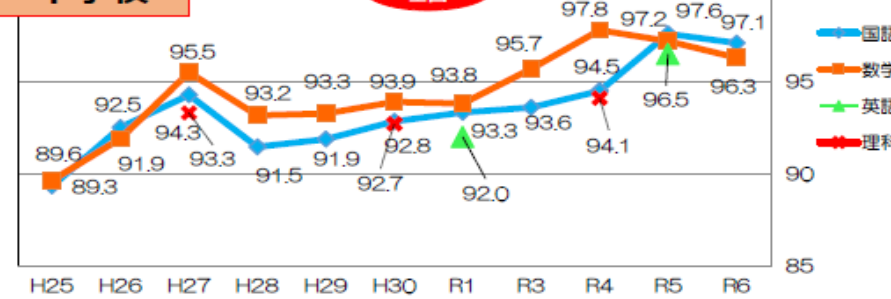
中学校	令和6年度		
	門真市	大阪府	全国
国語 (全15問)	7.6	8.6	8.7
数学 (全16問)	7.0	8.2	8.4

標準化得点を活用した対全国比経年比較

小学校



中学校



※標準化得点とは、全国平均との関係について年度間の相対的な比較ができるよう、計算されたものです。
※平成25年から平成30年までの算数・国語の調査結果、A・B区分の平均値で表しています。



結果の概要と今後へ向けて

【結果の概要】

○標準化得点で見ると、昨年度の結果と比べ、小学校の結果は、国語は2.1ポイント、算数は0.9ポイントそれぞれ下降、中学校の結果も、国語は0.5ポイント、数学は0.9ポイントそれぞれ下降する結果となりました。
○本市では、門真市版授業づくりベーシック（学習指導要領に基づいた授業改善）を推進しています。その成果を「全国の平均正答率7割以上の問題」において図っており、本市においても同じく正答率7割以上を目指すということを一つの目標として取り組んでおります。その観点において今回の結果は以下の通りでした。

小学校6年	国語【全14問中】	全国（7問）	門真市（2問）
	算数【全16問中】	全国（8問）	門真市（3問）
中学校3年	国語【全15問中】	全国（3問）	門真市（1問）
	数学【全16問中】	全国（5問）	門真市（3問）



【今後に向けて】

○門真市教育委員会では、門真市教育振興基本計画にある「門真のすべての子どもたちが、将来の自立をめざして、自分の生き方を見つけること」を目標に、「主体的に学びに向かう力」と「課題を発見・解決する力」を伸ばすため、令和の日本型学校教育の実現に向けて、子ども主体の学びと探究的な学びを推進して参ります。

○今年度も門真市教育委員会指導主事、伴走チーム等が定期的に学校訪問を行うなど、学校と教育委員会が一体となり、子どもたちの資質・能力の育成に関する取組を推進しております。

引き続き、子どもたちの資質・能力の育成に向け、学校における取組の推進を支援して参ります。保護者の皆様のご協力とご支援をよろしくお願い致します。



門真市教育振興
基本計画

小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

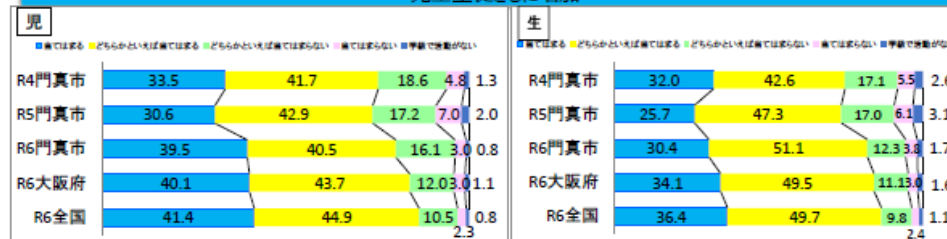
①授業は自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている

児童生徒ともに増加



②学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる

児童生徒ともに増加



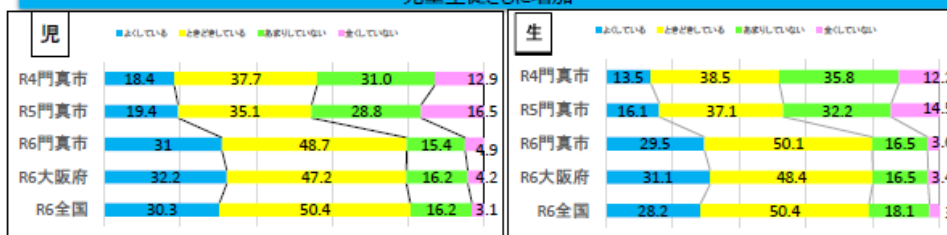
③授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる

児童生徒ともに増加



④分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することができる

児童生徒ともに増加



小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

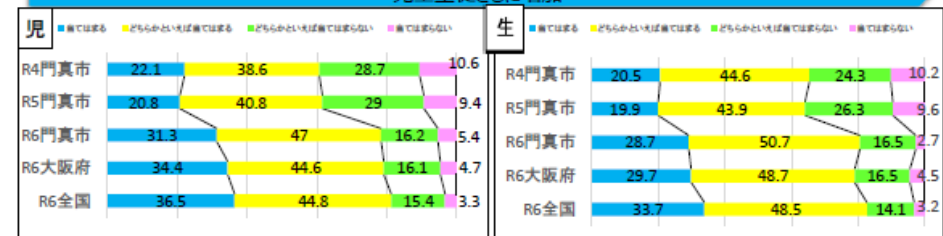
⑤授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

児童生徒ともに増加



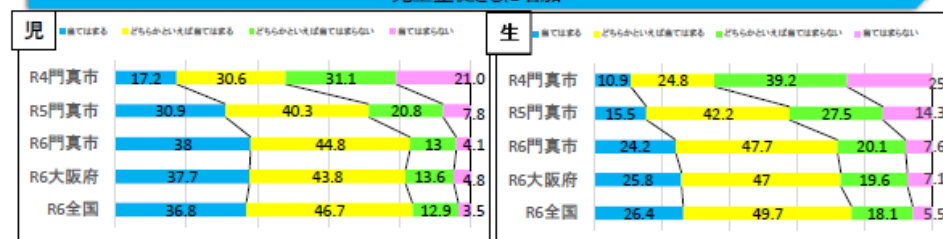
⑥総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

児童生徒ともに増加



⑦地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある

児童生徒ともに増加



※「学びに向かう力、人間性等」については、本市がめざす「主体的に学びに向かう力」と「課題を発見・解決する力」の育成に向けて、児童生徒質問紙より関係する項目を7項目に整理しました。本市では、前年度（令和5年度）より改善が見られますが、児童においては、全ての項目で全国値（肯定的回答）を下回っております。生徒においては、項目①、③、④で全国値（肯定的回答）を上回る結果となりました。

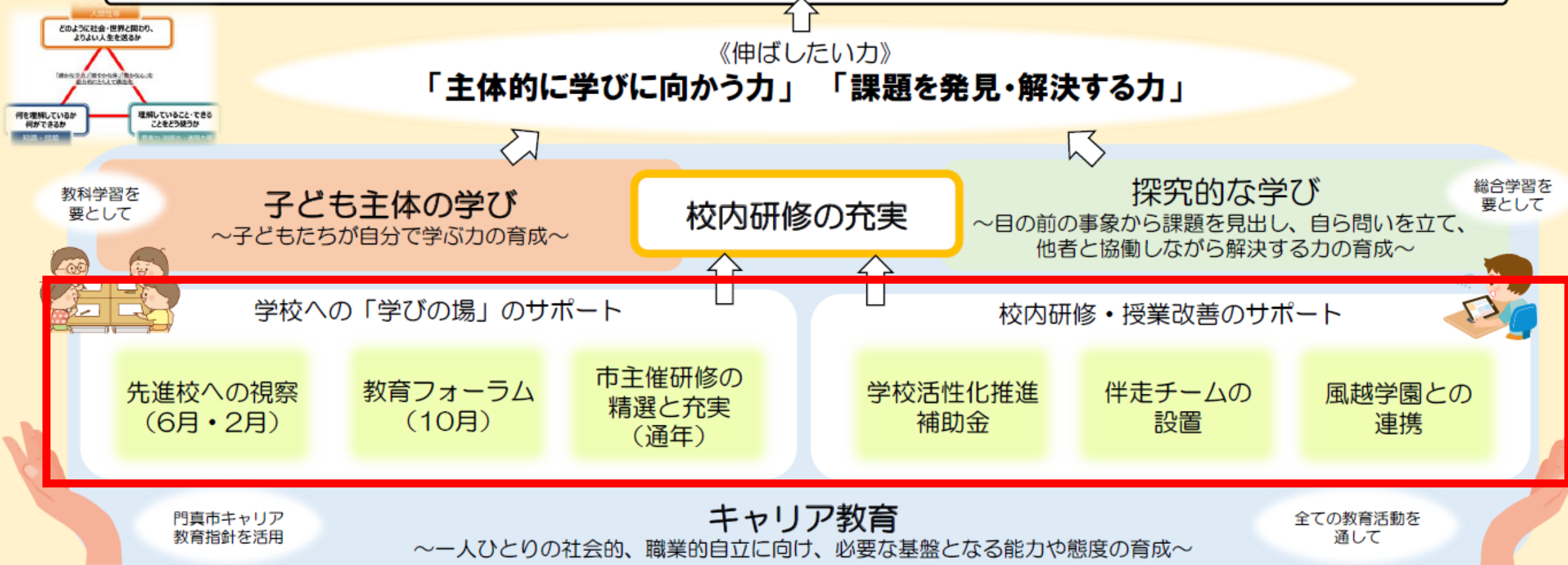
この「学びに向かう力、人間性等」は、学びに向かう土台として考えており、この力の向上が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の向上へつなぐと考えております。



『令和の日本型学校教育』の実現

～資質・能力の育成（学力向上）の取組に関わって～

将来の自立をめざして、自分の生き方を見つける子ども（門真市教育振興基本計画2021）



アクションプランの取組を継承しつつ、さらなる学習指導要領の確実な実施と定着をはかる

～ R3～R5アクションプランの3年間 ～

- 成果：○ PDCAサイクルによる校内研究組織の構築
○ 目標と指導と評価の一体化に基づいた授業改善
○ 小（国・算）、中（国・英）で過去最高値

- 課題：○ 過去最高値ではあるが、全国平均超えの目標は達成できず
○ 児童生徒の学力差の開き
○ 主体性・自己学習力
○ 課題発見・解決能力
- ・全国平均以上（R3：39% → R5：44%）
 - ・全国比6割未満（R3：20% → R5：25%）
 - ・計画的に家庭学習をしている（国：63% 市：54%）
 - ・学んだことをほかの学習で活かす（国：76% 市：70%）
 - ・自分で課題をたて、整理し、調べ発表する（国：74% 市：63%）

1 授業改善『伴走チーム』

〔活動内容〕

計画訪問 年2回全校で実施（管理職・担当者ヒヤリング、授業観察）

個別訪問 ① 校内研修の実施（1学期23回）

② 研修づくり（1学期20回）

③ 授業づくり（1学期44回）

〔今後に向けて〕

▷教員個人への授業づくり伴走の拡大

▷10月教育フォーラムで実践者の取り組みを発信

▷市教委と市内全教職員で実践事例の教材等が共有ができる仕組みづくり



2 『学校活性化補助金』の活用

〔目的及び趣旨〕「令和の日本型学校教育の実現をめざし、
校長のリーダーシップのもと魅力的な学校づくりを推進する」

〔補助金額〕

▷研究指定校以外の17校…1校につき15万円ずつ

※研究指定校の2校には門真市研究指定校補助金として20万円ずつ

3 市主催『先進校視察』

① 石川県加賀市小中学校（6月26日実施 37名参加）

② 愛知県東浦町緒川小学校（2月実施予定）

4 『軽井沢風越学園』との連携

